

# 新型コロナウイルス影響調査（第一回）

2020/4/23 16:30現在

#	その他影響（自由記述）
1	利用者がいつもと違う状況に対して混乱しているのか、落ち着きがなくいつもと違う反応がある。
2	通所自粛をお願いしているが、実習も事業所移行も就職も支援できないまま支給決定期間だけが終了に近づいている。漠然とした不安を利用者も職員も抱えている。
3	就労B型ですが、在宅支援を検討する場合、どのような事例があるか知りたいです。今後は、検討する必要がかなり高くなると思われます。単なる休業は、利用者の外出する機会を増やすことになり感染リスクが高まる様にも思われます。
4	職員自身・家族の不安もあり、体制上の問題が出てくる可能性がある。事態が長引いたときの想定と対応を検討せざる負えない。事業の継続が課題にもなる。
5	話し合える機会が減った。ネット会議やチャットなどを開いてほしい。 福祉事業については、新型コロナウイルスに伴う利用率の低下に伴い今年度は減収になる。来年度も新規利用者の受け入れ等が今年度できないことや、休みの利用者の復帰などに伴い減収すると考えられる。 就労収入も利益率の高い作業が減少し、今年度は大幅な減収。来年度についてコロナに伴う不況を考えられ減収が見込まれる。コロナ終息後、リーマンショックの時のように社会状況が変わることが予想される。それに向けて今準備しておかないと大変なことになる。
6	マスクやアルコールなどの減少が激しいがそれに伴う補充が出来ていない
7	休日の利用者の過ごし方として、外出されておられる方がいる。なるべく外出を控えてもらうように個別にも話しているが、理解が難しい面がある。利用者工賃やボーナスの支払いについても今後難しくなってくる。
8	就労移行支援事業所においてどれくらいの施設がどういった対応をしているのか知りたい（わかる範囲ですぐにでも）
9	生活介護は通所控えが契約数の2割程度。B型は収益4～5割減の見通し。
10	時短ではなく曜日ごとに、作業内容などで通所人数を制限しています。4月20日から定員の半分ずつぐらい(8～10人)の通所で、コロナの影響で保護者が通所させたくないという方が1名おられます。アンケート内容と若干意味合いが違っているので一応書き加えておきます。
11	発熱者が利用者の中で発生し、このような状況が引き続き継続すると、事業所自体の安定した運営ができずに、倒産が現実として懸念される状況です。 ただ運営はさておき利用者の支援としても、事業所内で発熱利用者が発生した旨を関係機関に伝えた所、発熱をしていない他の利用者の在宅サービスや通所支援もあわせて中止になってしまった現状です。支援者として、日々コロナウイルスと戦いながら、利用者の必要なサービスが実施できなくなりつつある現状があり、いち早く終息を願うとともに、県内の安全確保に全力で滋賀県が取り組んで頂ける様に強く願う日々が続いております。